

梅雨って何?

5月も後半になると、そろそろ梅雨入りが気になってきます。この時期に雨が降ると、「この雨って梅雨?」というような問合わせも増えます。同じ雨でも降る時期によって、いつもと種類が違う雨のように思えるのは、ちょっと面白いですね。

では、『梅雨』って何なのでしょう?

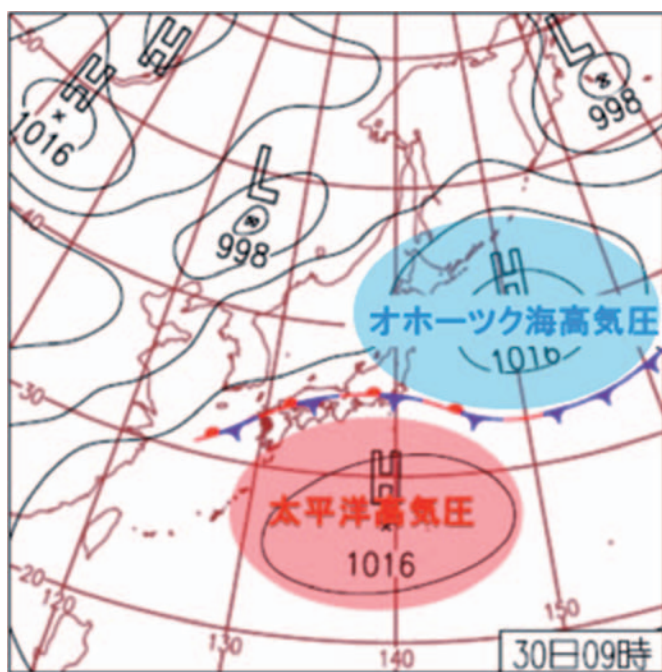
「つゆ」とも「ばいう」とも読みますが、梅の実が熟する頃に降る雨だからとか、黴(カビ)が生えやすい時期だから「黴雨(ばいう)」と呼ばれて転じた、という説などがあります。また、旧暦の5月にあたることから、「五月雨(さみだれ)」ともよばれます。

気象庁では、【梅雨は、春から夏に移行する過程で、その前後の時期と比べて雨が多くなり、日照が少なくなる季節現象】としていて、その時期に突入するタイミングで、「梅雨入り」を発表しています。

地域	梅雨入り平年日
沖縄	5月 9日
奄美	5月 11日
九州南部(奄美地方を除く)	5月 31日
九州北部(山口県を含む)	6月 5日
四国	6月 5日
中国	6月 7日
近畿	6月 7日
東海	6月 8日
北陸	6月 12日
関東甲信	6月 8日
東北部	6月 12日
東北北部	6月 14日

梅雨前線の成り立ち

梅雨の時期の天気図の特徴は、東西に延びる【梅雨前線】です。性質の違う気団がぶつかり合うと、その境目に前線ができます。前線は、その動きと構造によって、温暖前線、寒冷前線、閉塞前線、停滞前線の4種類に分けられますが、梅雨前線は、このうちの停滞前線に該当します。



梅雨の天気図(2016年6月30日)
気象庁 HPより一部加工

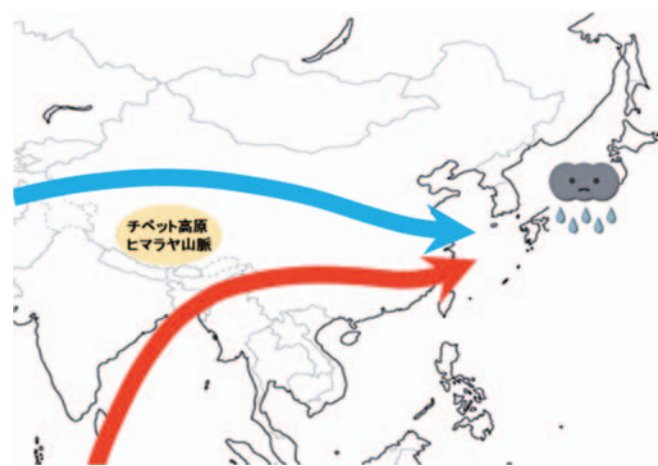
5月、6月頃になると、日本の北側に涼しいオホーツク海高気圧が発生します。一方、南からは暖かい空気をもつ、夏の太平洋高気圧が勢力を強めてきます。この温度差のある2つの高気圧がぶつかり合い梅雨前線が発生します。2つとも海の上で形成されていますので、水蒸気をたっぷりと含んでいて、前線付近にじれじめと長雨をもたらしま

す。大体、前線の北側300km以内では雨。さらに、その北側400km以内では曇天となります。

ヒマラヤ山脈がなければ、日本の梅雨はなかった?!

さらにグローバルに見ると、日本に梅雨という現象が起きるのは、ヒマラヤ山脈やチベット高原があるからだといわれています。平均高度4,500mのチベット高原。その南側に8,000m級のヒマラヤ山脈が位置します。

日本で梅雨が始まる頃、インドのモンスーンも始まります。インド洋でたっぷり水蒸気を含んだ南西モンスーンは、ヒマラヤ山脈やチベット高原を越えられず、迂回して東アジアを北上します。この気流が、チベット高原の北を通る偏西風と日本付近で合流。その合流したところに梅雨前線が形成されるのです。つまり、梅雨は、ヒマラヤ山脈の風下に位置する日本だからこそ起こり得る、特有の現象ともいえます。



シトシト型、どしゃ降り型

梅雨時の雨の降り方は、時期と地域によって特徴があります。梅雨入り直後は、シトシトとさほど強くない雨が長期にわたって降るのが特徴ですが、太平洋高気圧の勢力が増す6月下旬頃からは、どしゃ降りになり、大雨に見舞われることがあります。また、地域でいうと、西日本が【どしゃ降り型】。東日本や東北が【シトシト型】です。

昨年6月19日から30日にかけて、本州付近に梅雨前線が停滞し、その前線を低気圧が次々に通過。19日~30日の降水量は、九州の広い範囲で

500mmを超え、宮崎県えびの市では1210.5mmと記録的な大雨になりました。

太平洋高気圧の周辺にあたりやすい西日本は、高温多湿の空気が流入しやすく、土砂降り型になることがよくあります。一方、東北や関東では、オホーツク海高気圧から吹き出す寒冷湿潤な北東風が流入し、どんよりとした肌寒い天候が何日も続くことがあります。

梅雨が占める割合

ここで、梅雨の期間の降水量を見ると、地域によって差はあるものの、年間降水量の20%以上。とくに西日本では、30%以上を占めていることが分かります。

地点	6月・7月の降水量(ミリ)	年間降水量(ミリ)	割合(%)
仙台	325.0	1254.1	26.9
東京	321.2	1528.8	21.0
名古屋	404.6	1535.3	26.3
大阪	341.5	1279.0	26.7
広島	505.6	1537.6	32.8
松山	415.2	1314.9	31.5
福岡	532.7	1612.3	33.0
鹿児島	771.2	2265.7	34.0

(1981~2010の平年値)

梅雨は、じめじめと湿度が高く不快指数も高まります。また、長雨や大雨、時には集中豪雨など、災害への危険度も高まります。しかし、一方で、水の需要が増える夏場に向けて、水資源を蓄える大切な恵みの雨でもあります。防災意識を高めながら、日本特有の季節現象と、上手く付き合っていくことが必要なのです。

たけ せいこ
多森 成子

Profile

気象予報士
三重テレビ 気象キャスター
「三重のタモリさん」の呼び名で、地元三重の気象情報を18年担当。

【主な出演番組】
『NEWSウィズ』(月~金)
17:40~18:00、
21:55~22:15
『三重の風紀行』
(毎月第2日曜日)
18:30~18:45

